

誤用はリハビリテーション医の間では良く知られた障害ですが、この問題に正面から取り組んだ研究報告は少なく、今回の特集は若手リハビリテーション医必読の企画です。

■ 誤用の概念「誤った身体活動や道具使用により生じる病的状態」

著者は昨年日本リハビリテーション医学会学術集会のシンポジウムで誤用の概念と自験例に関して報告していたが、本稿の中で誤用の概念を「誤った身体活動や道具使用により生じる病的状態」と明確に定義。さらに誤用は身体活動ばかりではなく、道具（訓練機器、補装具、その他、生活環境にあるもの）使用により生じた障害も含めること、過用との概念的重複があること、二次障害に限定する必要はないことを提案。今後の「誤用」研究にインパクトのある論文です。（蜂須賀研二氏ら、365 頁）

■ 臨床症状、動態X線像から片麻痺患者の肩の痛みを解説

片麻痺の肩の痛みは古くて新しい問題です。この痛みは、肩関節周囲炎、亜脱臼、拘縮で説明されていたが、著者はこの病因の一つにインピンジメントの存在を主張。実際に、片麻痺患者の麻痺側肩関節外転で大結節付近にしばしば疼痛を生じるので、この説には十分納得ができ、また著者のX線動態の所見は大変説得力があります。（野村栄貴氏、369 頁）

■ 片麻痺者を中心に、杖の誤用を解説し、その対策を提起

著者は、片麻痺患者の杖歩行といえども、杖の使用を誤って指導することにより過度の負担が手、手関節、肘関節、肩関節などに加わり、末梢神経障害や関節症などを引き起こすことが十分考えられ、注意を常に払っておくべきものと指摘している。片麻痺患者の杖使用に関する諸問題は、新たに出現してきた臨床上そして研究上の重要なテーマです。（太田喜久夫氏、375 頁）

■ 対麻痺者の上肢末梢神経障害のメカニズム、現状、対策を明解に

対麻痺者の手の誤用による末梢神経障害の頻度は予想外に高率で、9名中8名に1か所以上の障害がみられている。著者らは障害者の上肢末梢神経障害に関して一連の研究を行っており、これらの結果から車椅子駆動時に手袋の使用、駆動方法、上肢筋力強化、肥満防止の注意点をあげており、日常臨床上、参考になります。（堂園浩一朗氏ら、381 頁）

■ 工場健診での調査から、工具使用による手の障害を具体的に解説

工具使用により、特に作業初心者に弾撥指が起りやすい理由として、慣れない手指運動の繰り返しで腱、腱鞘に炎症を起こしたのではないかと推察しています。（清水建詞氏ら、387 頁）

■ 好評連載中、実践講座「フィジカル・フィットネス」、今回は「脊髄損傷とフィジカル・フィットネス」

脊髄損傷者の身体活動の意義や必要性に関して、リハビリテーション関係者が理解しておくべき内容を簡潔にレビュー。（田島文博氏ら、427 頁）